

基町地区活性化計画に掲げる取組の実施状況等（令和 8 年 3 月 3 1 日時点）

1 多様な世代が暮らすまち
【重点項目】若年世帯・子育て世帯の入居促進
基町アパートの全体世帯数に対する若年世帯・子育て世帯の世帯数の割合（11.3%）を広島市全体の割合（25%）まで増やし、多様な世代で構成されたコミュニティを形成することを目指す。

区 分	役 割		実施状況		目標達成状況	課題と対応
【重点取組】 特例的入居の実施及び地域による受入れ ※基町地区活性化計画（以下「活性化計画」という。） 5 ページ参照 《目標》 令和 3 年度までに特例的入居を 5 5 世帯にする。	地域	・地域に必要な人材の掘り起こし ・入居者を新たな地域の一員として迎え入れるための入居者への声かけや雰囲気づくり	地域行事での交流等を通じて、人材の掘り起こし、入居者を新たな地域の一員として迎え入れるための雰囲気づくりを行っており、特例的入居者から自治会長や民生委員等を担う者が出てきている。	継続	令和 6 年度に 5 5 世帯を達成した。制度開始からの入居世帯累計は 1 1 5 世帯、令和 7 年度末の入居世帯数は 5 3 世帯となっている。	特例的入居者は約半数が学生であることもあり、地域に根差した人材になってもらえるかどうかは課題である。地域行事での交流等を通じて、自治会活動に積極的に参加してもらえるよう声かけを行い、「基町に住み続けたい」と思ってもらえるよう取り組む。
	行政	・制度等の仕組みづくり ・入居者の募集・受付	特例的入居は令和 6 年度に初めて 5 5 世帯となり、その後の入退去で令和 7 年度末の入居世帯数は 5 3 世帯となっている。 より地域のニーズに合わせた地域活動に取り組むため、入居要件を自治会長との面談結果に基づく地域活動とした。	継続		地域の活性化に、より貢献できる人材を確保する必要があるため、「若年世帯」について、令和 8 年度から単身者を対象とする見直しを行う。 入居者が参加する地域活動が地域の活性化に寄与するものとなるよう、入居要件変更の効果検証を行い、更なる改善を検討する。
【重点取組】 地域活動の即戦力となる人材（Uターン世帯）の確保 ※活性化計画 6 ページ参照 《目標》 令和 3 年度までに、特例的入居 5 5 世帯のうち U ターン世帯の入居を 1 0 世帯以上にする。	地域	・地域活動の担い手として期待できる U ターン世帯の掘り起こし及び推薦	地域での人材の掘り起こし及び推薦の結果、地域活動やスポーツ大会へ積極的に参加する U ターン世帯が出てきている。	継続	令和 7 年度末の U ターン世帯入居世帯数は 1 3 世帯となっている。	U ターン世帯の入居条件等について、自治会によっては理解が十分でなく、積極的な周知、制度活用が図られていない。 行政と連携し、更なる制度周知を図る。
	行政	・地元推薦の仕組みづくり ・推薦された者の入居条件の審査	地域からの制度紹介等により、令和 7 年度は 4 世帯の U ターン世帯の入居があり、令和 7 年度末の入居世帯数は 1 3 世帯となっている。	継続		地域のことをよく知り、即戦力となる U ターン世帯を確保するため、地元推薦の仕組みづくりや更なる制度周知方法について検討する。

区 分	役 割		実施状況		目標達成状況	課題と対応
【重点取組】 若年・子育て世帯に限定した公募の実施及び地域による受入れ ※活性化計画 6 ページ参照 《目標》 毎年度 5 0 戸、入居者を若年・子育て世帯に限定した公募を確実に実施する。	地域	・入居者を新たな地域の一員として迎え入れるための入居者への声かけや雰囲気づくり	地域行事での交流等を通じて、入居者を新たな地域の一員として迎え入れるための声かけや雰囲気づくりを行っており、自治会によってはバーベキュー等のイベントを意欲的に実施し、積極的に声かけをしている。	継続	令和 7 年度は、5 0 戸の若年・子育て世帯に限定した公募を実施した。	限定公募による入居者は、一般入居者との見極めができないこと、入居者の多くが外国人であること等から個別の声かけが難しい面がある。 自治会等の活動を積極的に発信すること等で、入居形態にこだわらず交流できる場を増やしていくことを検討する。
	行政	・制度等の仕組みづくり ・入居者の募集・受付	令和 7 年度は、入居者を若年・子育て世帯に限定した公募を 5 0 戸実施した。 若年・子育て世帯がより入居しやすくなるよう、電子申請限定での複数申込みも可能としている。	継続		将来の基町を支える若年・子育て世帯の入居を促進する必要があるため、引き続き、毎年度 5 0 戸の限定公募を実施する。

2 教育環境が整い、子育てしやすいまち
【重点項目】基町小学校の教育の充実 放課後学習を含めた学力補充の一層の充実や児童一人一人の習熟度に応じた少人数指導などによる丁寧な教育環境を整備する。 多文化共生教育や基礎的学力の向上、隣接する幼稚園・保育園との連携・交流を推進する。

区 分	役 割		実施状況		目標達成状況	課題と対応
【重点取組】 習熟度別指導の徹底 ※活性化計画 7 ページ参照 《目標》 学校に行くのが楽しいと感じる児童を 1 0 0 %にする。	行政	・全学年習熟度別指導の実施 ・習熟度別日本語指導の実施 ・専任学校司書の配置による学校図書館の充実	習熟度別少人数授業を実施している算数科では、令和 7 年度標準学力調査において、複数学年で平均正答率が改善する傾向が見られた。 帰国・外国人児童について、個別の指導計画を作成し、日本語の習熟度に応じた指導を実施した。 専任学校司書を配置し、児童の実態に合わせた読書しやすい環境づくりや読書活動の推進の支援を行った。	継続	令和 7 年度に実施した児童アンケート調査において、「学校が楽しい」と回答した児童の割合は、前期 8 9 . 6 %、後期 8 6 . 6 %と高い水準を維持している。	国籍等の多様化、日本語指導が必要な児童の増加に対応するため、児童一人一人の習熟度に応じた指導を行っているが、基礎的な学力の定着に差がある。 児童一人一人のつまずきに応じた指導法の工夫改善を図りつつ、初期指導カリキュラムの整備や研修による教員の指導力向上を進め、「学校が楽しい」と感じる児童の割合が 1 0 0 %となるよう、取組を継続する。
【重点取組】 放課後子供教室の実施 ※活性化計画 8 ページ参照 《目標》 学校に行くのが楽しいと感じる児童を 1 0 0 %にする。	地域	・学習支援や多様な体験活動の実施	ほのぼの文庫アフタースクール運営委員会において、概ね月に 1 回、放課後子供教室を実施し、県立広島大学生を指導員とした放課後学習やレクリエーション等の体験活動を行った。	継続	令和 7 年度に実施した児童アンケート調査において、「学校が楽しい」と回答した児童の割合は、前期 8 9 . 6 %、後期 8 6 . 6 %と高い水準を維持している。	指導員となる大学生の人員不足、未登録児童が保険の関係で活動に参加したくてもできない状況が見られる等の課題がある。 他大学への声かけ、活動を大学授業の一環として取り扱うなどにより人員不足解消を図り、行政と連携して登録児童数の増加を図る。
	行政	・企画・運営など活動全般への協力・支援	ほのぼの文庫アフタースクール運営委員会に放課後子供教室事業を委託し、令和 7 年度は、基町小学校の児童 1 0 0 人中 8 3 人が放課後子供教室に登録した。 概ね月 1 回の活動に職員が同席するとともに、年 1 回の報告会において活動内容に対する助言等を行った。	継続		活動に参加したい児童が参加できる環境を構築する必要があるため、基町小学校と連携し、全校児童を対象に登録案内するとともに未登録児童の保護者に個別に連絡するなど、登録児童数の増加を図っている。 「学校が楽しい」と感じる児童の割合が 1 0 0 %となるよう、取組を継続する。

2 教育環境が整い、子育てしやすいまち					
【重点項目】 幼児教育・保育の充実 外国人の子どもが増えている基町保育園において、絵や写真などを用いた視覚的な支援を通じて生活に必要な言葉の獲得を促し、子ども同士の遊びを通じてきまりを守る心やコミュニケーション力を育む。また、外国人保護者とのコミュニケーションを円滑にするとともに、子どもや保護者が多文化に触れ合う機会を創出するなど、相互理解の促進を図る。					

区 分	役 割		実施状況		目標達成状況	課題と対応
【重点取組】 一人一人の子どもに寄り添った支援の充実 ※活性化計画 8 ページ参照 《目標》 保育園での生活が楽しいと感じる年長児を100%にする。	行政	・一人一人の子どもに寄り添った支援	専任の保育士等で構成する多文化共生チームを中心に、目で見えて分かるよう視覚的な教材を用いた支援を行った。令和7年度は、誕生児のお祝いを母国語で行うなど、多文化に触れ合う機会を創出した。職員会議等で文化的背景や宗教食への対応、保護者支援等について共有することで、一人一人の子どもに寄り添った支援につなげている。	継続	保育園での生活について、子ども一人一人から聞き取りを行ったところ、それぞれ肯定的な気持ちの表現が確認され、園での生活が楽しいと感じている姿が見られた。	年度ごとに在園人数や国籍にも違いがあり、必要な対応も異なる。定期的に多文化理解や「やさしい日本語」での保護者支援について、職員同士が園内研修等を通じて学び合う機会をつくり、スキル向上を図りながら、これまでの取組を継続・発展させ、一人一人の子どもに寄り添った支援を一層充実させていく。
【重点取組】 子どもと保護者の国際理解の促進 ※活性化計画 8 ページ参照 《目標》 子どもと保護者が多文化に触れ合うための交流会を、保育園で年1回開催する。	行政	・多文化に触れ合うための交流会の実施	外国人の子ども及び保護者との円滑な連携を図るため、専任の主任保育士を中心とした取組や通訳機の活用を行った。令和7年10月には地域住民を交えた多文化交流会を開催し、料理や遊びを通じた各国の言語や文化に触れ合う機会を創出した。	継続	令和7年10月に多文化交流会を開催した。	保護者同士の交流をより深める必要がある。多文化交流会にふれあい遊びを取り入れるなどすることで、保護者同士も繋がりを持てるようにしていく。

3 高齢者が安心して暮らせるまち
【重点項目】 高齢者を支える施設の整備 高齢者が基町地区で安心して暮らしていくことができるように、基町地区内に宿泊機能を持つ介護事業所を導入する。

区 分	役 割		実施状況		目標達成状況	課題と対応
【重点取組】 宿泊機能を持つ介護事業所の導入 ※活性化計画9ページ参照 《目標》 令和2年度までに宿泊機能を持つ介護事業所を開所する。	行政	・介護事業所を整備・運営する事業者の募集・選定 ・国有地の事業者への転貸	令和2年2月に社会福祉法人福祉広医会を介護事業者として決定し、同年4月に国及び事業者と事業用定期借地権設定契約を締結した。その後、介護事業者が事業所を整備し、令和3年8月に開所した。	完了	令和3年8月に宿泊機能を持つ介護事業所を開所した。	—

4 多様な文化が交流できるまち
【重点項目】外国人入居者のサポート 市営住宅への入居時の説明や配布資料の充実、相談体制の整備などにより、日本での生活習慣への理解を促す。

区 分	役 割		実施状況		目標達成状況	課題と対応
【重点取組】 外国人市民相談員による生活相談窓口の開設 ※活性化計画 1 1 ページ参照 《目標》 相談してよかったと感じる相談者の割合を100%にする。	地域	・地域活動等に関する質問・相談があった場合の外国人市民相談員等への協力・助言	まずは制度の周知が重要であるため、外国人市民相談員による生活相談窓口の案内チラシをエレベーターや掲示板に掲示し、周知を図った。	継続	相談に関するアンケートに御協力いただいた方全員（100%）から「相談してよかった」旨の回答を得ている。	中国語・ベトナム語以外の言語でも説明が必要である。 外国人市民相談員等への協力・助言の機会がない。 個人情報の取扱いには注意しつつ、外国人市民相談員と自治会長等との情報共有の方法について検討する。
	行政	・外国人市民相談員（中国語）の確保・基町管理事務所への配置、受付対応	毎月第2火曜日（祝日を除く。）に基町管理事務所において、中国語対応の外国人市民相談員による生活相談窓口を開設している。 令和8年3月からは、追加で毎月第4金曜日（祝日を除く。）にベトナム語対応の相談窓口を開設した。	継続		中国語・ベトナム語以外の言語を話す住民も増えているため、利用可能な支援として広島市・安芸郡外国人相談窓口の周知を図るとともに、相談窓口の利用状況等を踏まえ、支援のあり方について検討する。

5 潤いのある魅力的なまち
【重点項目】第17アパートの建替え
第17アパートの建替えに当たっては、現入居者に必要な住宅戸数の確保と若年世帯の入居を促進する仕組みの導入を進めるとともに、地区住民の集会施設や地域に必要な機能の導入を図る。

区 分	役 割		実施状況		目標達成状況	課題と対応
【重点取組】 第17アパートの建替え ※活性化計画12ページ参照 《目標》 令和2年度までに建設場所や住戸数等を決定し、令和6年までに建設工事に着手する。	行政	・「広島市市営住宅マネジメント計画」に基づいた第17アパートの建替え	令和6年12月に建設工事（177戸）に着手し、令和9年3月の完成を目指して工事を進めている。	継続	令和6年12月に建設工事に着手した。	令和9年3月の完成を目指して建設工事を進めていく。

6 地域の交流が活発なまち
【重点項目】基町ショッピングセンターの活性化 活性化につながる施設改修や入店者募集を進め、魅力的でにぎわいのある施設にする。 中央広場やその付近にある店舗については、地区住民等の出会いや交流の場として活用する。

区 分	役 割		実施状況		目標達成状況	課題と対応
【重点取組】 出会いや交流の場としての活用 ※活性化計画 1 3 ページ参照 《目標》 令和 3 年度までに出会いや交流の場として活用できるスペースの整備に着手する。	地域	・イベント・交流会等の検討及び実施	基町ショッピングセンター中央広場等を活用して、令和 7 年 1 1 月にこいこい祭（秋まつり）を実施した。中央広場等を活用したフリーマーケットなどのイベントも開催されている。	継続	令和 4 年度に基町ショッピングセンター中央広場を、令和 7 年度に屋上ウッドデッキを整備した。	地区住民と基町ショッピングセンター自治会とで活性化の議論を行い、イベントの企画や店舗の公募方法、新たに整備が完了した屋上ウッドデッキの活用方法等を検討する必要がある。 基町地区活性化推進協議会の地域委員に基町ショッピングセンター自治会の代表を指定し、地区住民と入店者とが一体となった検討を行う。
	行政	・スペースの確保及び整備	令和 4 年度に基町ショッピングセンター中央広場を、令和 7 年度に屋上ウッドデッキを整備した。	継続		新たに整備した屋上ウッドデッキの具体的な活用方法が定まっていなかったため、地域と連携しながら運用方法等を検討する。
【重点取組】 屋上や通路等の共用部分の施設改修 ※活性化計画 1 3 ページ参照 《目標》 令和 3 年度までに施設の改修工事に着手する。	行政	・地区住民及び入店者の意見・要望を踏まえた施設改修の実施	令和 4 年度に施設の改修工事に着手した。通路及び共用トイレの床面改修、壁面塗装、天井照明の L E D 化並びに屋上緑化施設改修等を実施し、令和 7 年度に完成した。	完了	令和 4 年度に施設の改修工事に着手した。	—
【重点取組】 活性化につながる入店者の募集 ※活性化計画 1 4 ページ参照 《目標》 業種・営業時間帯等を指定した入店者募集を年 2 回以上行う。	行政	・募集条件の検討 ・入店者の募集・受付	基町ショッピングセンター自治会と協議しながら募集条件等を検討した。令和 7 年度は 1 店舗の入店者募集、受付を行った。	継続	令和 7 年度は 1 店舗の入店者募集、受付を行った。	魅力的でにぎわいのある施設にするためには、活性化につながる入店者募集を進める必要があることから、これまで基町第 1 7 アパート内の市営店舗の移転先として確保するなどの理由により募集していなかった店舗を含め、令和 8 年度以降は募集店舗を増やせるよう取り組むとともに、にぎわいの創出が見込めるよう基町ショッピングセンター自治会と協議しながら募集条件等を検討する。